



好天に恵まれ、大勢の買い物客でにぎわう「どてびっくり市 in 花巻」

活気に包まれる商店街
5月26日、歩行者天国となった上町商店街通りで、「どてびっくり市 in 花巻」が開かれました。
今回で20回目の開催となる同イベントには市内外から35店が出店し、食料品や衣料品、農産物、海産物などを販売。格安の衣料品や新鮮な食材など各店自慢の商品が並び、晴天の下、集まった大勢の人を楽しませていました。
このほか、花巻中学校吹奏楽部の生徒たちが午前と午後の2回、演奏と踊りを披露し会場を盛り上げていました。



田植え体験に参加した皆さんは、丁寧に稲の苗を植えました

田んぼアートで田植えを体験
「八幡田んぼアート」の田植え体験が6月2日、石鳥谷総合支所近くの水田で行われました。八幡まちづくり協議会が地域の活性化などを目指して行ったこのイベントには、地域住民など約110人が参加。広さ約30坪の水田に、宮沢賢治の童話「なめとこ山の熊」を連想させる絵柄や、復興応援メッセージが浮かび上がるよう、稲の苗を一本一本丁寧に植えていました。
稲の生育とともに稲穂が色付き、巨大な絵が完成する田んぼアート。石鳥谷生涯学習会館の駐車場から見ることが出来ます。



淵澤能恵の顕彰碑前に献花する参列者

韓国女子教育の母をたたえる
韓国女子教育の礎を築いた石鳥谷町八重畑出身の淵澤能恵(1850~1936年)の碑前祭が5月26日、石鳥谷図書館前にある顕彰碑前で開催されました。
「淵澤能恵を顕彰する会」が主催した同碑前祭では、代表者2人が碑前に献花し、昨年10月に韓国を調査訪問した会員が概要を報告。参列した会員など約20人は、改めて郷土の偉人の功績をたたえました。
淵澤は、55歳で韓国に渡り、亡くなるまでの約30年間を韓国女子教育のために尽力。「韓国女子教育の母」と呼ばれました。



花巻小の児童の皆さんの前でバイオリンとピアノを演奏する(左から)木野さんと平沢さん

美しい音色で復興を応援
「復興応援コンサートPart4」が5月28日、花巻小学校で開催されました。東日本大震災からの復興を応援しようとして、日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスターの木野雅之さんと、ピアノ・チェンバロ奏者の平沢匡朗さんが演奏。広く親しまれているクラシック曲のほか、宮沢賢治の「耕母黄昏」や花巻小学校歌が会場に響き渡りました。
児童の皆さんは、第一線で活躍する音楽家が奏でる美しい音色に聴き入っていました。



横一列に並び、一斉放水を披露する消防団員の皆さん

防火・防災へ決意新た
6月2日、花巻市消防演習が朝日橋下流の河川敷で開かれました。
快晴の下、市消防団など総勢約2150人が参加し、ポンプ操作やラップ訓練などを統率のとれたきびきびとした動作で展開。ポンプ車70台が並んでの一斉放水で最後を締めくくり、火消しの心意気を示しました。
また同会場では、消防フェスティバルも開かれ、多くの親子連れなどが来場。消防車への乗車や放水を体験し、楽しみながら防火・防災の大切さを学んでいました。



スタッフの説明を受けながら、山野草摘みを楽しむ参加者の皆さん

山野草採りと料理を楽しむ
東和町の毒沢城跡地を中心に、6月1日「山野草クッキング2013」が開かれました。
青空の下、14人の参加者たちがスタッフの説明を受けながら、フキやヨモギなどを摘み取り、その後、東和総合福祉センターで山野草を調理。天ぷらや和え物などにして、摘み草の味を堪能しました。
西宮野目から参加した佐野美紀子さんは、「山野草を採る機会はほとんどないので、貴重な経験になりました」と充実した表情を浮かべていました。